



効果的に情報発信 新大阪駅周辺地域の再生に 英会話力測定ツール 今年度末に完成予定 府立高校

—加治木府議の府議会質問より

加治木一彦府議は12月1日の府議会本会議で新大阪駅周辺地域の再生や府立高校の英語教育などについて一般質問をしました。また、12月10日の環境農林水産常任委員会でドライミストなどを活用した猛暑対策などについて質疑をしました。概要は以下の通りです。

【一般質問より】

新大阪駅を中心とする地域は国や大阪府・市、UR都市機構などが協議会をつくり、今後のまちづくりについて検討しています。府はまちづくりの機運を醸成するため、国内外の企業や府民・市民向けなど対象に合わせ、シンポジウム開催やデジタル広告など効果的な情報発信に取り組む、と答弁しました。

府立高校の英語授業の改善に向け、ICTを活用し生徒が話した英語をすぐに測定・評価できるツールを開発しています。12月からモデル校で検証実験を始めており、今年度末に完成、来年度以降は多くの府立高校が活用できるよう取り組んでいくとのこと。

淀川流域のまちづくりは企業や民間団体、地元市町などで構成する「淀川沿川まちづくりプラットフォーム」が活動しています。大阪湾から京都方面までを視野に船着き場や河川敷などを生かした賑わいづくりや防災の取り組みを進めていく、との答弁がありました。



▲一般質問をする加治木府議

昭和40年代前半 淀川の風景



▲阪急電鉄新淀川橋梁付近



▲十三から西中島間

【環境農林水産常任委員会の質疑より】

府は今年度から駅前広場などで森林環境税を使い、ドライミストや植栽、日よけなどを組み合わせて夏の暑さを和らげる取り組みを進めています。今夏から稼働した4カ所は暑さ指数(WBGT)を最大2.9度引き下げたほか、アンケート調査で約8割の人が「涼しく感じた」「少し涼しく感じた」と答えるなど、一定の成果を上げています。

活動日誌より

11月 大阪市住吉区

14

「2020 OSAKA 多文化共生フォーラム」に

出席しました。外国にルーツがある中学生の相談に同じ立場の高校生が答えていました。ある府立高校で多文化共生部と放送部の部長を務める女子生徒が自らの体験を通し「新しいことに挑戦しよう! いつの日か君の夢が近づいてくるから」と呼びかけたのが印象的でした。



▲外国ルーツの高校生に話を聞く加治木府議(中央)

大阪府議会ホームページ

▶ http://www.pref.osaka.lg.jp/gikai_giji/toppage/index.html



お知らせ▶



「大阪府議会議員 かじき一彦」

Facebookページにて、議員活動の情報発信をしております。当該ページに「いいね!」を押していただき、ぜひご覧ください。



「かじき一彦」のLINE@アカウント
右記QRコードから「追加」で、議員活動の情報発信をしております。

